

【22_270技術系メルマガ】『待ち伏せポイント』に着いたらやるべき事

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

僕が実践しているデイトレの基本戦術は、古典的な『押し目買い・戻り売り』が基本です。

短期足の『MA収縮』をセットアップとして確認し、大きな動き出しの1波を認識したら、プルバックを待ってエントリー。

その際に目安となるプルバックの終了候補が無ければ待ちようがないので

そこで僕がいつも一貫してチェックすると決めているのが『MAタッチ(詳しくは【256】通目のメルマガ参照)』です。

そこで、また質問を貰いました。

「MAへのタッチって、ピッタリで止まらないですよね？行きすぎた時はどうするんですか？」と。

その情報を自分の中でどう処理するかを考えるのも含めて本来は検証 なのですが。。。

ここで話が終わってもちょっと意地が悪いですからね(笑)

あくまで【僕の基準】であることは念頭に置いて頂いた上で、普段の認識としてどう考えているかを説明してみます。

┌
└─┬─ MAに対する反応のイメージは『ゴム』
└───┘

僕は、初めてこのフレーズを目にした時(サロン内でomuさんがこのように表現していた)

『ああ、なるほど！』と独りPC画面の前で激しく頷いていた記憶があります(完全に不審者ですね)

要するに、MAにタッチというのは、あくまで自分が勝手に意識した移動平均値に到達したというだけの話であって

値動きがそこで都合よくピタリと止まるわけではないのです。

また、基本的に波の転換を伴う反転というのは、あるプライスに到達してから急に「回れ右」をするような値動きをすることはあまりありません。

(たまにあったとしても、それはV字上昇・A字下落になるので、基本的に手は出せません)

キレイな値動きというのは、自分が『この辺(僕の場合なら収縮を伴ったM15/40-50とM5/100MAの連動タッチ)で切り返しを見る』と認識し

そこから『短期足のチャートパターン(反転のサイン)』を確認したうえで、目線方向へのエントリーを決めています。

実際僕はトレードしませんが、そのイメージが分かり易いチャートがあったので、ひとつ紹介しておきますね。

▼事例: EURJPY(L) 9/19▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/chart/2022-09-19.png

このチャートを見て貰っても分かるように、M5足の100SMA(紫色)に注目すると

ちょっと実体が下に大きく抜けていて、見ようによってはブレイクしているのではないかと

と、思われるかもしれません。

ですが、これは僕から見るとまだプルバック許容範囲内であり、M15足では注目している40-50SMAの際にいる状況です。

であれば、この周辺で下位足のチャートパターンが発生してくれて、前もって決めた『目線方向』と一致してれば、迷わずエントリーが出来るわけです。

～～

今回、僕がセットアップに活用しているMAの反応を事例として紹介しましたが

この理屈は、他のテクニカルや水平線に対するプライスアクションを見るのも、理屈としては同じです。

結局は、自分が最後エントリーの可否を決断するにあたって『待ち伏せていたポイントで何が起こればエントリー(見送り)と判断するのか?』

を、ルール作成の時点でしっかり決めておくことが重要なのです。

ここをあいまいにしている限り、いつまでもチャンスが来るたびに「やろうかな、、、どうしようかな、、、」と迷う事になるし

迷っている間にチャンスを逸してしまって、慌てて飛び乗ったらあえなくロスカット、、、

といった哀しいやり取りを繰り返すことになります。

もう、そんな想いはコリゴリですよ?

トレードというのは、これまでにお伝えしてきたことは、あらゆる角度で繋がっていて

目線にしろ、セットアップにしろ、そして今日話したエントリーの判断に至るまで

すべて『自分の判断の積み重ね』です。

今回、僕の『決めごと』を紹介しましたが、これはあくまでも参考でしかなく

最終的にどんなやり方で統一するのかは、『自分の納得する方法』で決めなくてはいけない事を忘れずにおいてくださいね。